

休眠の楽器 メキシコへ

日本の学校で不要になった楽器が、楽器不足に悩むメキシコの子どもたちのために使われることになった。メキシコ南東部のチアパス州立芸術科学大准教授でマリンバ奏者の古徳景子さん(32)が日本の学校関係者に提供を呼び掛けるところ、打楽器やアコーディオンなど約70点の楽器が集まり、23日に東京都内で授与



古徳景子さん

式が開かれる。楽器は同大の協力でメキシコへ搬送され、修理後に地元の小中学校などに寄付される。

古徳さんは、マリンバ奏者として南米を中心に活動し、昨年1月に同大准教授に就任。現地の学校の授業に参加した際、一つの楽器を何人かで使うほど楽器が不足している様子やMTIの存在を知った。

マリンバ奏者 学校に呼び掛け実現

一方、演奏旅行で日本の学校を回ると、新しい楽器の購入に伴い、使える楽器が廃棄されたり、倉庫にしまわれていくことが気になっていた。

同大の学長に相談したところ、搬送と修理に協力してもらえることになり、昨年8月から日本で開催するコンサートの際に、「眠っている楽器があったらメキシコへ」と呼びかけてきた。すると、主に栃木県内の小中学校から、アコーディオンと鍵盤ハーモニカ各20個のほか、鉄琴、木琴、大太鼓、ギターなどが集まった。23日の楽器授与式では、同大学長や在日メキシコ大使館員も出席する。

古徳さんは「古くなくても楽器としての価値が失われたわけではない。昨年、日本メキシコ交流400周年を迎えたほど両国の友好の歴史は古い。音楽教育での新たな交流の一步にしたい」と話している。

